

# 福島第一原子力発電所メガフロート水位上昇に係る 点検状況と対応について

< 参 考 資 料 >  
2017年3月29日  
東京電力ホールディングス株式会社

No.5 VOIDの壁面及び床面について水中カメラ及び潜水士による調査を行った結果、北西側の区画において3箇所の損傷を確認した。

北側壁面と床面の接合部近傍に約1cmの開口及び下部補強板に変形【部】

床面より高さ約80cmの位置に取り付けられた補強板と北側壁面の接合部近傍に約4cmの割れ【部】

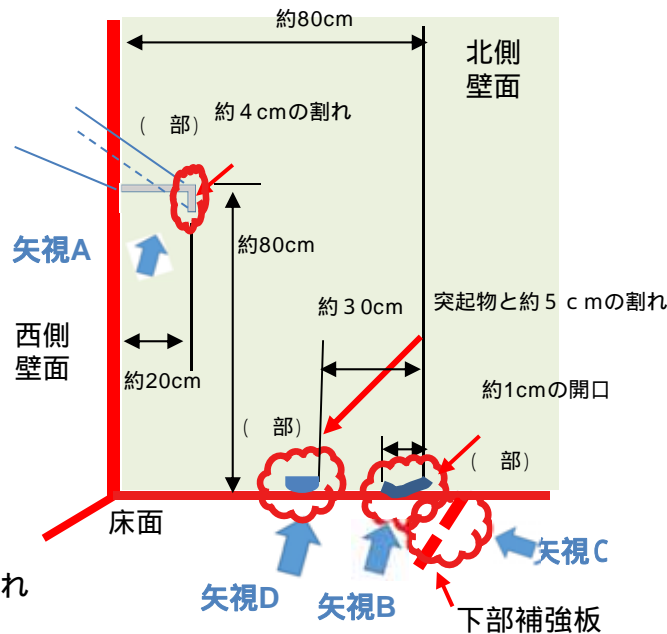
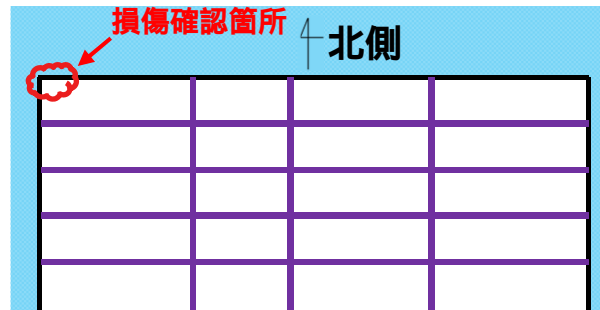
北側壁面と床面の接合部近傍に突起物と約5cmの割れ【部】



【部】(矢視A) 約4cmの割れ



【部】(矢視D) 突起物と約5cmの割れ



【部】(矢視B) 約1cmの開口



【部】(矢視C) 変形した下部補強板

## No.5 VOID内損傷箇所の補修及び流入確認結果

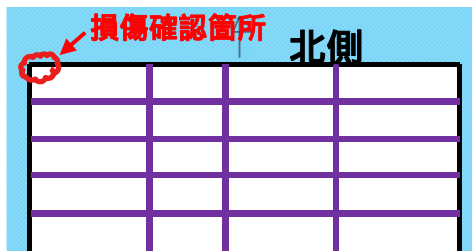
損傷箇所の補修（潜水作業）

VOID内面及び外面からの肉盛り溶接後，パテによる補修【 部】

VOID内面からの肉盛り溶接後，パテによる補修【 部】

VOID内面の突起物切断及び内面肉盛り溶接後，外面あて板溶接，パテによる補修【 部】

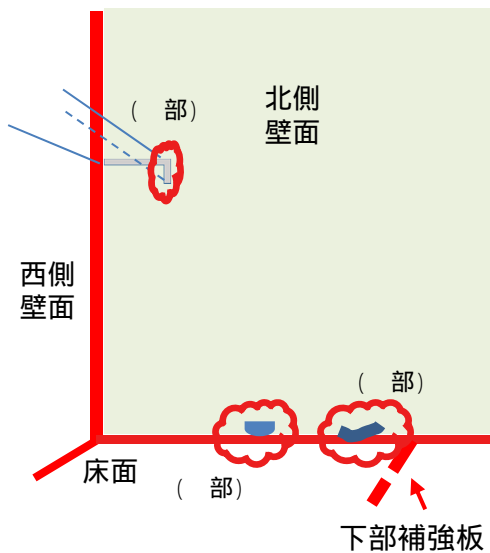
2017年3月22日～28日まで補修後の流入確認のため、No.5VOID水位を低下させ、水位上昇（海水の流入）がないことを確認  
：潜水土被ばく線量：0.00mSv



【 部】内面・外面肉盛り溶接 + パテ補修



【 部】内面肉盛り溶接 + パテ補修



【 部】突起物切断，内面肉盛り溶接  
外部あて板溶接 + パテ補修

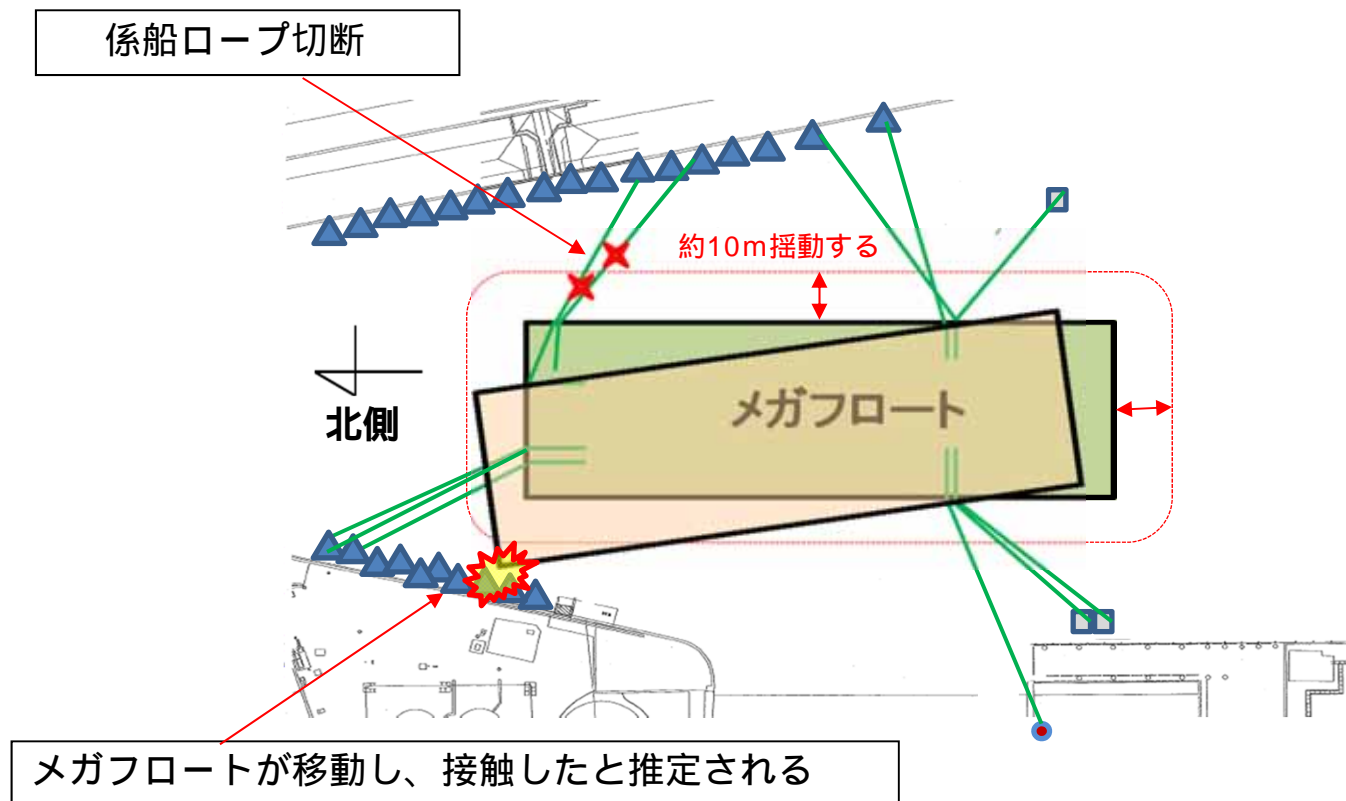


(3/27：荒天のため、測定中止)

日付

## 推定原因

- メガフロートは潮の満ち引きにより上下するため、係船ロープのテンションに余裕を持たせている。そのため、東西南北方向に約10m揺動する。
- 変形及び割れが発生した原因については、係船ロープが切れた際にメガフロートが10m以上揺動し護岸の構造物（消波ブロック）に接触したことによるものと推定される。



## 対策

- メガフロートの係船位置は損傷がみられた北西コーナーが再度接触しないよう、南側へ10m移動した位置に調整。
- 係船ロープ切断時には、バラスト水の水位測定による監視を強化し、接触による海水流入の早期発見に努める。

